

独創性と技術力で、社会とともに発展し続ける

カシオは、誰にとっても必要でありながら従来になかった独創的商品を開発することで世の中に貢献し、ステークホルダーの皆様とともに発展を目指します。

● 斬新な商品を実現するコンセプト開発とコア技術

カシオの商品企画の原動力は、人まねをしない、常に原点に立った商品開発の姿勢です。まだ世の中に現れていなくても、誰にとっても必要だと考えられるものが、まだこの世には無尽蔵にあります。そうした潜在的な需要に気づき、現実の製品にすることによって、新しい市場や文化が生まれ、周辺産業の発展にも繋がります。

独創的なアイデアを実現させるのは、日頃の研究開発による技術の蓄積です。カシオは創業時から培ったデジタル回路のノウハウ

を活かし、LSIの設計を自社で行い、小型・高性能・低消費電力の回路を実現。デジタルカメラ用画像処理回路「EXILIMエンジン」などに活かしています。1978年より生産を開始した液晶ディスプレイは中小型に特化した開発を行い、自社製品の他、幅広く外販も行っています。また、フィルム状回路基板やCOG(Chip On Glass)などの高密度実装技術、「G-SHOCK」に代表される防水・耐衝撃技術などが、独創性の高い商品企画を実現させています。



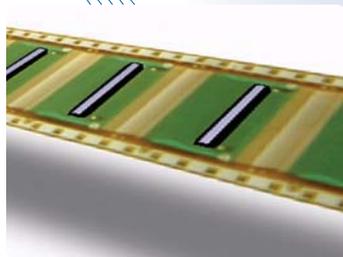
防水・耐衝撃技術



高性能画像処理
モジュール
「EXILIMエンジン」



電波受信技術



フィルム状回路基板(COF)



中小型高精細
TFT液晶ディスプレイ

● 2つの事業基盤による収益性と発展性の両立

カシオは市場でトップシェアを獲得し、安定的な収益を得ている事業を「基盤事業」、マーケットが今後世界的に拡大していくことが見込まれる反面、参入企業数も多く競争が激化している事業を「発展事業」と位置づけています。「基盤事業」で安定的利益を獲得しながら「発展事業」の売上高・営業利益を拡大させ、成

長性と収益性を安定的に確保できる経営を推進しています。

商品開発においては、全社を挙げて原価率の低減に取り組んでいます。設計段階から工夫をすることによって部品点数を削減し、また共通プラットフォームを用いることにより無駄を省き、より迅速な開発を実現しています。

数値は2005年度

発展事業

営業利益率：5.7%

売上高：3,182億円
(前期比+6.7%)

携帯電話

「W41CA」が単独機種として
全キャリアを通じて
連続13週

販売ランキング

1位を獲得*

(2006年2月6日～5月7日)



デジタルカメラ

全世界出荷
460万台



TFT液晶ディスプレイ

世界のデジタルカメラの
3割に搭載 (カシオ調べ)



基盤事業

営業利益率：11.8%

売上高：2,621億円
(前期比+0.5%)

電子辞書



日本市場シェア **1**位
(50%以上)*

時計

全世界出荷 **3,500**万台

電波時計 全世界出荷
240万台

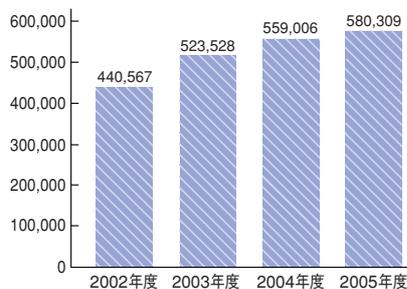
世界市場シェア **1**位
(カシオ調べ)



ほか、電子楽器、システム機器など

*3,000店を超える家電量販店での販売実績を集計するGfK Japan 調べ

売上高の推移 (単位：百万円)

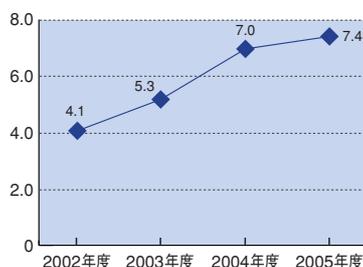


達成計画 2006年度
6,300億円

持続的な成長による発展

発展事業を中心に売上高の拡大が続いており、2006年度には6,300億円を達成する計画です。

営業利益率の推移 (単位：%)



達成計画 2006年度
8.1%

営業利益率を重視

経営指標では営業利益率を最も重視しています。2006年度には8.1%の達成を目標とし、さらに10%を目指して努力してまいります。

株価の推移 (最高値 単位：円)



配当金 ¥12.50 ¥15.00 ¥17.00 ¥20.00 (円/年)

資本の有効活用による社会への貢献

株主の皆様からお預かりした資本を、将来性ある新たな事業分野に投入していくことで、新しい技術や市場の発展に貢献します。そして得られた利潤を株主の皆様へ還元することで、豊かな社会づくりに貢献します。